

犬山の教育の重要施策2010

学びの学校づくり

—犬山の子は犬山で育てる—

犬山市小中学校長会
犬山市教育委員会

学びの学校づくり

犬山の学校教育は、人格の完成をめざし、すべての子どもの学びを保障することを主眼におく。そのためには、子ども同士、子どもと教師の温かな人間関係の中で、豊かな人間性と確かな学力の形成に努める。また、同僚性に基づく教師相互の温かな人間関係の中で、教師としての専門性を高め、資質・能力の向上に努める。さらには、各学校の取り組みの成果の共有化を図り、地域に根ざした特色ある学校づくりをめざす。

○ めざす子ども像

自ら学ぶ力を身につけた子どもの育成をめざす。自ら学ぶ力とは、基礎的な学力を身につけ、生涯にわたって自ら学び続けようとする確かな学力であり、家族や友達を大事にし、地域を支え、自分の人生を大切にしようとする豊かな人間性である。

○ めざす教師像

自ら学ぶ子どもを育むには、自ら学ぶ教師でなくてはならない。教師自らが、日常の授業や子どもの育ちを振り返り、継続的に授業改善や研修を積み重ねることにより、教師としての専門性や資質・能力の向上に努める教師の育成をめざす。

○ めざす学校像

子どもが通いたい学校づくり、親が通わせたい学校づくり、教師が働きがいのもてる学校づくり、地域に信頼される学校づくりをめざす。地域の教育力の活用を図るとともに、安定した質の高い日常を提供することにより、学校に学びの文化を根づかせる。

1 人格の完成をめざす学びの学校づくりをすすめる

子ども同士、子どもと教師との温かな人間関係の中で、豊かな人間性を育成するとともに、確かな学力の形成に努める。

(1) 豊かな人間性を育成し、温かな人間関係を育む学級づくりをすすめる

ア 少人数による学び合いの授業を通しての温かな人間関係の育成

少人数による学び合いの授業を通して、子ども同士、子どもと教師との温かな人間関係を育む。

イ 温かな人間関係の中での豊かな人間性の育成

温かな人間関係の中で、認め合い、助け合う集団づくりに努め、自他ともに大切に、主体的に行動しようとする子どもを育む。

(2) 確かな学力の形成し、自ら学ぶ力を育む授業づくりをすすめる

ア 子ども主体の授業を通しての確かな学力の形成

一人ひとりがじっくりと学べる少人数による学習環境の整備に努め、子ども主体の授業を実現し、確かな学力の形成に努める。

イ 魅力あふれる授業づくりを通しての自ら学ぶ意欲の向上

(ア) 子どもの興味・関心に基づいた教材を開発し、魅力ある授業を提供することにより、学ぶ喜びを体得させ、自ら学ぶ意欲を高める。

(イ) 算数・理科・国語副教本については、学習指導要領の趣旨やこれまでの経緯をふまえつつ、予算的な措置も含めて今後の在り方について検討する。

(3) 個々の子どもの育ちを保障する

小学校では2011年度、中学校では2012年度からの新学習指導要領の完全実施に向けて、将来を見据えた新しい時代の義務教育の在り方を探る。

ア 道徳的実践力の育成

少人数による学び合いの授業や道徳の時間を中心に、あらゆる教育活動を通して、豊かな人間性の育成に努め、道徳的実践力を高める。

イ 基礎・基本の確実な習得

基礎・基本の明確化を図り、個に応じた学習に取り組ませることにより、基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得に努める。

ウ 思考力・判断力・表現力等の育成

基礎・基本の活用を図ることにより、思考力・表現力・判断力及びコミュニケーション能力を高める

エ 言語能力の育成

少人数による学び合いの授業を通して、「聞く」「話す」能力を高めるとともに、「読む」「書く」能力を高める。

オ 主体的な学習態度の育成

質の高い魅力あふれる授業にふれることにより、学習に対する関心を高め、主体的な学習態度を育成する。

カ 外国語活動の推進

平成8年4月から取り組んでいる外国語活動について、NET6名の活用の可能性を探るとともに、諸外国及び我が国の言語や文化に対する関心を高める。

2 教師相互の学び合いによる主体的な授業改善をすすめる

同僚性にもとづく教師相互の学び合いを重視し、教師としての専門性を高め、資質や能力の向上をめざす。

(1) 校内研修の充実を図り、教師の資質や能力を高める

ア 授業の公開

原則として、月1回の授業公開日を設定し、教師がお互いに授業を通して学び合うことにより、授業づくりの能力を高める。

イ 学校訪問

学校訪問を日常の授業実践と同一線上に位置づけ、積極的に授業改善に努めようとする意識を高める。

ウ 教師の資質や能力を高める教職員評価

教師相互の豊かな人間関係をもとに、教師としての資質や能力の向上に資する教職員評価の在り方について研究を深める。

(2) 教師の学びを広げ、教師としての専門性を高める

ア 学校説明会・懇談会

学校・家庭・地域が一体となった教育のまちづくりをめざし、家庭・地域との連携を深め、学校づくりへの支援の輪を広げる。

イ 犬山授業改善交流会

日常の授業改善の成果を持ち寄り、教師相互が学び合うことにより、授業改善の能力を高める。

ウ 授業研究会

有志を募って授業研究会を組織し、指導方法の工夫改善について研修を深め、教師としての専門性を高める。

3 評価の充実を図り、学びの学校づくりの熱度を高める

子どもが自己の学習の様子を、教師が自己の指導の状況を評価し、評価を学習や指導に活かすことにより、学校に学びの文化を根づかせる。

(1) 評価を活かし、子どもを生かす

ア 評価の継続と指導への活用

日々の授業の中で、確認テストや観察などによる継続的な評価を積み重ね、個々の指導に活かす。

イ 自己評価力の向上と学習への活用

子ども自身が、授業への取り組みの様子や学習内容の習得状況をつかむ振り返りカードの活用を図り、その後の学習に活かす。

(2) 評価を活かし、教師を生かす

ア 子どもの姿を通しての授業づくり

目の前の子どもの姿を出発点に置き、「めざす子どもの姿」と「手だて」を明確にした授業づくりに努める。

イ 子どもの姿を通しての教師の資質・能力の向上

「子どもの姿は、教師の指導の結果である」という認識に立ち、子どもの姿を通して教師自らが指導を振り返り、指導の改善を図ることにより、資質・能力の向上に努める。

4 学校の活性化を図り、学びの文化を根づかせる

地域が学校を育て、学校が地域づくりに貢献する学びの学校づくりを積極的に進めるとともに、学びを支える施設・設備の整備に努める。

(1) 学びを支え、学校の活性化を図る

ア 30人学級の拡大

生活集団と学習集団を一体とする少人数学級は、人格形成と学力保障に欠かせない教育環境である。市費常勤講師8名を小学校に配置し、30人学級の拡大を図る。

イ 少人数授業・TT授業の積極的な推進

小中学校に49名の市費非常勤講師を配置することにより、小学校算数、中学校数学・英語については少人数学級、小中学校理科についてはTT授業を積極的に進める。

ウ 特別支援教育の充実

特別支援教育支援員の配置を4名増員し11名に拡大し、通常学級に在籍しながら特別な支援を必要とする子どもの支援体制を整備するとともに、個別の支援・指導の充実を図ることにより、すべての子どもの学びを保障する。

エ 主体的な教育課程の編成の推進

教育課程の編成にあたり、地域の実情、子どもの実態に応じ、特色ある教育活動を展開する。

オ 教師が授業に専念できる体制づくり

校務分掌の見直しによる簡素化、学校運営の効率化を進め、教師が授業づくりに専念できるような体制づくりを進める。

(2) 地域と支えあう学びの学校づくりをすすめる

ア 幼保小中高の連携の強化

幼保小中が、それぞれの役割を自覚し、責任を果たす。子ども未来センターとの協力体制を整備し、幼保と小の連携を深める。子ども相互、教師相互の交流を通して小と中、中と高との連携をより一層深めることにより、さまざまな角度から子どもの学びを支援する。

イ 放課後子どもプランの推進

健康福祉部と連携し、放課後子どもプランの推進を積極的に支援する。

ウ 子ども大学の開催

休業土曜日を活用して子どもたちが幅広い体験活動に参加し、自ら学ぶ力を育成できるような体制の整備に努める。また、NPO等地域の教育力の有効な活用を図り、地域ぐるみで子どもを育てようとする気運を高める。

エ 部活動の支援

部活動指導員を市単独で採用し、中学校における部活動を積極的に支援する。

オ 保護者との連携深化と学校ボランティアの活用

保護者とともに支え合い開かれた学校づくりをめざし、懇談や研修会・講演会を設けるとともに、学校ボランティアの活用を図る。

(3) 子どもの学びを支える環境づくりをすすめる

ア 学びの学校づくりに視点を置いた安心・安全な学校づくり

羽黒小学校については、南舎の耐震改修工事を完了させるとともに、次年度の北舎の改築工事に向けての設計を行う。

イ 安全で快適な施設・設備の整備

羽黒小学校の建築が完了する平成25年以降の犬山幼稚園を含めた市内小中学校の大規模改修計画の作成に取り組む。

平成22年度の予定

【2010（第9回）犬山授業改善交流会】

○ 期 日：平成22年10月29日（金）

○ 会 場：犬山市立犬山南小学校・犬山市立犬山中学校